

週間展望・回顧(ドル、ユーロ、円)

October 8, 2021

中国恒大集団のデフォルト懸念に要警戒

- ◆ドル円、11月FOMCでのテーパリング開始観測で底堅い展開か
- ◆米9月消費者物価指数と小売売上高、中国恒大集団のデフォルト懸念に要警戒か
- ◆ユーロドル、ドイツ10月ZEW景況指数やユーロ圏8月鉱工業生産に注目

予想レンジ

ドル円 110.00-114.00 円
ユーロドル 1.1200-1.1700 ドル

10月11日週の展望

ドル円は、11月の米連邦公開市場委員会（FOMC）でのテーパリング（資産購入の段階的縮小）開始の可能性を背景に、底堅い展開が予想される。上値を抑える要因としては、中国恒大集団のデフォルト（債務不履行）懸念となる。今週のWTI原油先物価格は、4日に開催された石油輸出国機構（OPEC）とロシアなどの産油国で構成される「OPECプラス」が増産を見送ったことで79.76ドルまで上昇し、米10年債利回りも1.57%台まで上昇した。米系短期筋が原油価格上昇に脆弱な日本経済への売り、すなわち、円売り、日本株売り、日本国債売りを仕掛けたが、「米国が戦略石油備蓄（SPR）を放出する」との一部報道で、トリプル安は一服した。その後米エネルギー省は「現時点ではSPRを放出する計画はない」と表明しているものの、原油価格の動向に要警戒となる。また、中国恒大集団は、9月末期限の外債建て社債の利払いを履行しなかったことで、現在は30日間の猶予期間に入っており、デフォルト懸念は払拭されていない。さらに中国恒大集団が保証していた社債が4日に償還されなかったことで、クロスデフォルトの可能性も警戒されている。15日は、中国の大手不動産会社のドル建て債の償還日となっており、中国の不動産バブルの崩壊の可能性にも警戒が必要だろう。

FRBメンバーの進退動向にも注意したい。9月のFOMCでの金利予測分布図で、2022年の利上げを予想したタカ派は、18名中9名だった。しかし、タカ派のローゼングレン米ボストン連銀総裁とカプラン米ダラス連銀総裁は、倫理規定違反で辞任を表明。クラリダFRB副議長も倫理規定違反が取り沙汰されている。更に、タカ派のクウォールズFRB副議長も13日に任期満了を迎える。テーパリングの開始が予想されている11月のFOMCでは、タカ派の4名が不在となる可能性も高く、原油価格やインフレ状況次第では、テーパリング開始が12月に先送りされる可能性も台頭してくる。13日に発表される米9月消費者物価指数は、上昇が予想されていることもあり注目したい。

ユーロドルは、ドイツの社会民主党主導の連立政権の組み合わせへの警戒感や英国と欧州連合との北アイルランド議定書を巡る議論が難航していることで上値が重い展開の中、ドイツやユーロ圏の景況感指数に注目する展開となりそうだ。ユーロ圏のインフレ率は、原油価格の上昇を受けて、13年ぶりの高水準を記録しており、ユーロ圏の8月鉱工業生産やドイツ10月ZEW景況指数などで、インフレ高進の下での景況感を見極めることになる。

10月4日週の回顧

ドル円は、110.82円から111.79円まで上昇した。WTI原油先物価格は、OPECプラスで原油増産が見送られたことで79.76ドルまで上昇し、米10年債利回りは1.57%台まで上昇した。米国の連邦債務上限に関しては、共和党が12月までの一時的拡大を容認したことから、デフォルト懸念は後退した。ユーロドルは、8月ユーロ圏小売売上高が予想を下回ったこともあり、1.1640ドルから1.1529ドルまで下落した。ユーロ円も、129.50円から128.33円まで下落した。（了）